

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 湯野福祉会
施設名	宮前保育所
報告者(役職)	松岡 万里子 (所長)
住所・連絡先	〒729-0111 広島県福山市今津町3丁目2番7号 ☎ (084) 934-5321 miyamae@midori-h.com

○タイトル (保育計画)

コロナウイルス対策に対応しながら乳児の発達に必要な環境を整える

○主な助成品

乳幼児用折りたたみベッド 折りたたみおむつ交換台 乳幼児ランチテーブル
ハイハイクライマーAセット シューズボックスポータブル18 授乳用ワゴン

1.保育計画策定の目的

宮前保育所は、公立保育所の民間移管を受け、2020年4月に開所し、2021年4月から新園舎で0歳児の受け入れを開始し、定員を90名に増員しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、乳児の発達に即した環境づくりをどのようにすればよいのか。また、0歳児を初めて迎えるため、乳児に優しい環境・ゆったりと安全に過ごせる空間を作ることを目的とし、検討を重ねてきました。

当所では、生後43日からの受け入れであることから、各月齢に合った保育室の環境づくりに重点を置き、ひとつの保育空間に午前寝をする乳児のためのベッド、ハイハイができる場所やコーナーに分かれて遊べる空間づくりの工夫など何度も検討を重ねました。

乳児保育には、私たちの持っている専門性をいかんなく発揮することが必要であり、若い世代の保護者に子どもの過ごす環境を実際見ていただくことで、安心感を与え、育児が楽しいものとなるよう努めていくことも大切に考え取り組んできました。

2.具体的な実践内容

①乳幼児用折りたたみベッド

生後6ヵ月頃までの乳児は一日の大半を寝て過ごすため、ゆっくりと眠れる環境はとても大切です。保育所では異なった月齢の子どもたちが過ごすため、ベビーベッドの空間が安全でなければなりません。

特に入所当初は新しい環境への戸惑いと生活リズムの変化により睡眠も浅くなりがちですが、寝ている乳児の呼吸のチェックやベッド内の様子も保育者の目線に入りやすい位置に設置し、頻繁に確認を行っています。

ベッドの高さも調整でき、高月齢の乳児がつかまり立ちをしても寝ている乳児が安全に守られ、保育者も声をかけやすいです。

ベッドの柵を活用して乳児が眺められるモビールを取り付けたり、オルゴールの音が聞こえたり乳児が心地よく過ごせる環境を整えています。



②折りたたみおむつ交換台

以前は交換台がなかったため、乳児のおむつ交換の際、他児がそばに寄ってくることもしばしばありました。乳児のおむつ交換は日に何度も繰り返されるため、清潔な環境で素早く終了したい願いがありました。

交換台には安全ベルトもついているため、予期せぬ子どもの動きにも安全で落下を防げます。高さもあるため、乳児の表情を見ながら優しく声掛けができ、コミュニケーションも取れています。



簡単に移動できるため、クラスの状況に合わせて気軽に動かすことができ、おむつ交換を行いながら、他児の行動にも気配りができています。

交換台がビニール製のため、汚物が付着した場合でも素早く処理ができ、衛生的に使用しています。

③乳幼児ランチテーブル

食事を美味しく食べてくれるよう、調理の先生はもちろん、保育者も乳児がどの程度の固さなら食べるかな？この味は苦手かな？など表情を確かめながら進めます。一定の距離を保ってコロナ対策を行っています。

いつもの先生、いつもの場所で安心して食事ができるよう心掛けています。



安定した座り心地のランチテーブルは月齢の近い乳児が座って食べることができ、お隣の乳児が食べている様子を見て、『ぼくも〜』と大きく口を開けてくれます。

保育者は、飲み込む様子やモグモグ口を動かす表情をみながら離乳食の進め方を工夫します。焦らずゆっくりといろいろな味や舌触りに親しめるように心がけています。

軽い力で移動できるため、戸外の様子が見えるよう設置を変えたり、高月齢の子どもたちが食べている様子が見える位置にしたり変化も楽しめます。

④ハイハイクライマーAセット

柔らかくて清潔に使えるクッションマットはコーナーあそび・ハイハイ・巧技台としても活躍しています。

マジックテープで簡単に組み替えもでき、月齢やあそびの内容によって工夫しています。

コーナーの間仕切りにも活用でき、保育者が絵本を手に持つと集まってきます。

子どもたちの落ち着く空間となっており、自然とマットの回りであそんでいます。柔らかい素材が月齢の低い子どもたちには安全で快適な空間となっています。

感染症予防も考慮し、頻繁に拭き掃除を行います。ビニール製のため汚れも簡単に落ち、常に清潔に使用しています。



⑤シューズボックスポータブル18

玄関に乳児用の靴箱を設けていますが、室内から戸外への移動は玄関経由より、保育室前のテラスから戸外への動線がスムーズで子どもたちの負担も軽減されます。

特に0歳児はお散歩カーでの移動も多く、戸外に靴箱を運び、広いスペースで個々に合わせてゆっくりと靴を履くようにしています。



移動ができる手軽さとコンパクトな収納ボックスなので1歳児は自分で靴を出し入れでき、「自分で」やりたい気持ちが育って来ると自ら収納をする姿も見受けられます。

クラス全員の靴を収納でき、夕方には室内にも取り込むことができ、雨にさらされることもありません。

安定感もあり、倒れる危険性もなく安全に活用しています。



⑥授乳用ワゴン



収納力もある乳児ワゴンは、調乳室に配置しています。調乳に欠かせないポットも常備でき、調乳室で使用する小物の収納はもちろんのこと、個別の哺乳瓶も収納可能なスペースがあり重宝しています。

上部にはポット以外の小物も置くことができるスペースがありゆとりをもって授乳準備を行なっています。調乳室内で全ての動作がスムーズに行なえることによ

り、乳児の授乳待ち時間も短縮されています。

可動式ワゴンなので、調乳室の清掃時には楽に移動ができ、衛生的な環境を保っています。

3.その成果と評価

低年齢の乳児を受け入れるにあたり、保育室内の環境については細かな配慮が必要です。近年低月齢からの入所希望も増えており月齢に合った環境設定も保育の一環として検討すべき点です。低月齢から高月齢の乳児に適した環境設定を何度も話し合い、準備を進めてきました。

今回揃えて頂いた物品、どれをとっても子どもたちに必要なものばかりです。静かな空間で眠れるベッド・子どもと目を合わせながらおむつ替えできる交換台・周りを見渡しながらか美味しく食事ができるランチテーブル・しっかり体を動かして遊べるクッションマット・お出かけシーンに活躍する靴箱・調乳に役立つ乳児ワゴン。子どもにも保育者にもありがたい物品が整いました。

全ての物品が清潔に保たれるよう拭き掃除や一部の薬品処理にも対応しており、感染症対策も万全です。

4.今後の課題と展望

今後は物品を最大限に活用できるよう保育室内の配置をさらに検討し、乳児が家庭と同じように安心して過ごせる環境づくりを継続していきます。特にクッションマットは幾通りにも構成でき、保育のシーンによって使い分けをしたいと思います。後半には発達段階によってできる行為や活動に幅の広がりが見られるため、月齢ごとに落ち着いて保育を行なえる環境を整えたいと話合っています。乳児の動きを想定し、保育室内の動線も視野に入れながら心地よい空間を考慮したいと思います。

それぞれの物品を大切に長く使用できるよう、日々の安全確認を行ない、乳児が安心して過ごせるよう衛生管理にも心がけます。

以上